

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施 自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
南牧村	②学校と地域 の課題	05 その他	令和6年度より小中学校が統合し、義務教育学校となったが、現在全校児童生徒数は22名、7年度は18名の予定である。今後も減少が見込まれるため、地域との連携協働事業が重要であり、本村だからこそできる特色ある学びの確立を目指している。	NANMOKU学に関わる全体計画を作成したが、具体的な取組内容がわからないものはない。本村だからこそできる特色ある学びが伝わる内容となるように修正していく。収穫祭では、保護者と学校運営協議会委員のみの参加であった。	地域のヒト・モノ・コトを活かした本村だからこそできる「NANMOKU学」の9年間一貫した体験重視の地域学習に取り組む。また、地域住民が学校に集い、交流できる地域の活性化につながるサツマイモ栽培を通して「収穫祭(地域学校協働活動)」を実施する。	NANMOKU学に取り組み、ふるさと南牧を愛する児童生徒を育成する。また地域の活性化につながる「収穫祭」の実現により、地域とともにある学校・学校とともにある地域づくりを目指す。	収穫祭に様々な年代、立場の地域住民が参加し、児童生徒との交流を楽しむ。	20	人	40	20	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。指標とした参加人数で見れば昨年度から変わらずであったが、これがそのまま反省というわけではない。学校とも相談しながら進めた結果、昨年度よりも子供たちの思いが反映された収穫祭を目指すこととなった。その過程で運営協議会への子供たちの参加が実現し、結果として委員や地域の方の意識に、「子供たちのために何ができるか」から「子供たちとともに何ができるか」という変化が生じた部分もあった。来年度以降は、この意識を大切にしながら各主体のエージェンシーがより発揮されることを目指したい。